

犬の社会性評価試験

犬の社会性評価試験（SETテスト）規定

総 則

この試験は、人と犬とのより良い関係を目指し、飼い主が正しい犬の教育方法を取得し社会に受け入れられる「教育された犬」を普及する事を目的として、救助犬訓練士協会（RDTA）の「家庭犬のしつけ教育の普及・啓発活動」の一環として行われます。

また、大規模な災害発生時に避難所生活等においても想定される管理体制の中で、犬が平常時に近い状態で過ごすことが出来るための社会化も目的とします。

試験は、飼い主が犬を十分にコントロール出来ているかを見極める「オビディエンステスト」と、そのコントロールを犬にとって誘惑や刺激の多い社会の中で生かしているかどうかを見極める「社会性テスト」の2部門で構成されています。オビディエンステストはグランド等で行い、社会性テストは日常の生活を想定した場所で行われます

全ての犬種およびすべての大きさの犬が受験できます。ただし受験時において犬の年齢が12ヶ月以上であること。狂犬病ワクチンが接種済みであり、有効期限内であること。妊娠中の犬や、病犬、怪我をしている犬は受験できません。発情犬は基本的には受験できません。ただし、受け付け時に申告のあった場合に限り受験が可能になります。その場合、全ての試験の後になります。

全試験中、あるいは試験会場（駐車場など、その近辺も含む）において、犬の社会性評価試験に参加する者として相応しくない行動（ハードショック首輪の装着、チョーク首輪による過度な操作、犬の排便をそのままにしておく、犬に対する度を越えた体罰、他の犬に噛み付く等）を受験者あるいは受験犬が行った場合は、その犬の試験は中止されて失格となります。

犬の各動作は原則として、受験者の声による指示だけで行われます。

試験は全て審査員の合図で行います。規定に明記されていないことに関しては審査員が判断します。審査終了後は直ちに審査員から講評がなされ、評価に基づく得点と合否が発表されます。

社会性テスト は、犬の行動と態度により課題ごとに「V＝ 優れている」「SG＝特に良い」「G＝良い」「B＝満足できる」「M＝不合格」「U＝失格」の6段階で評価されます。

合格となるには、オビディエンステストで70点以上を獲得し、社会性テストで「B以上」の評価を得なければなりません。合格は受験した人と犬に対して与えられます。原則として飼い主の方が受験します。

試験で不合格になっても、再受験することが出来ます。同日にレベル 1、レベル 2 を受けることは出来ません。

SET 1 テスト

オビディエンステスト 100 点
2 ペアが一組となり行われます。

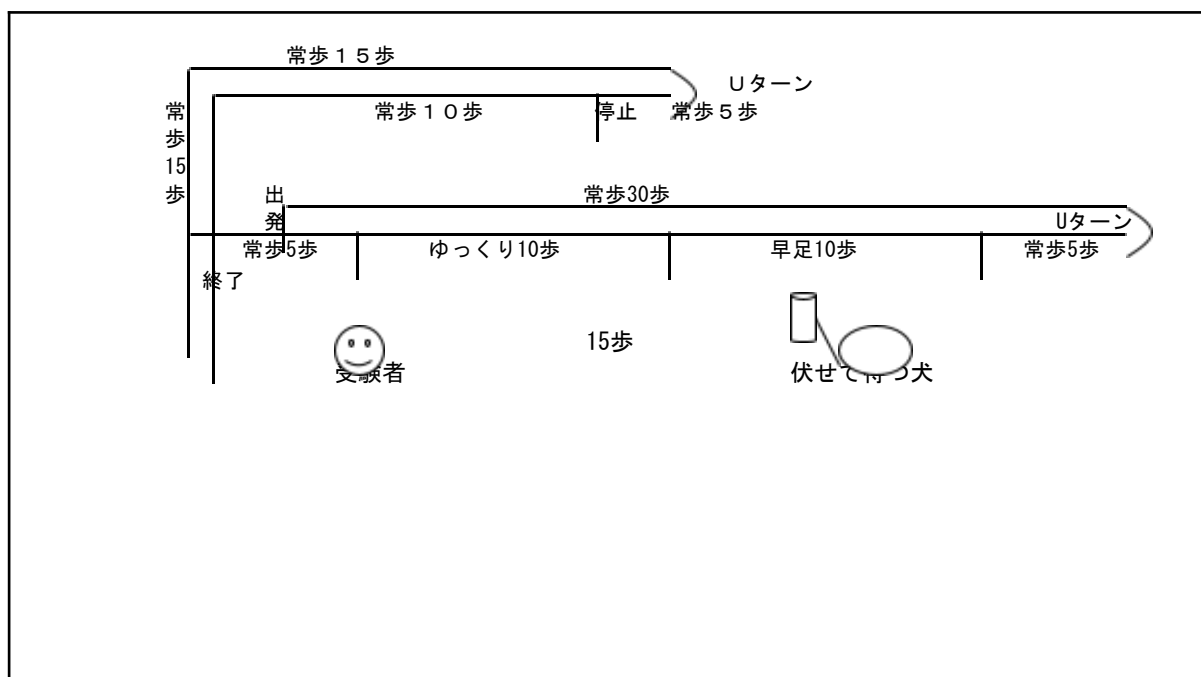
1. 決められたコースを、紐付きで横に付いて歩く (30 点)

実施要領

紐付きの犬を伴った 2 ペアが審査員の前に進み出て申告をします。受験番号の若いペアが出発点で基本姿勢（受験者は進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座る）で立ちます。審査員の合図で指示とともに以下の通りに歩き出します。

往路：常歩 30 歩→Uターン

帰路：常歩 5 歩→早足 10 歩→ゆっくり 10 歩→常歩 5 歩→右折→常歩 15 歩→
右折→ 常歩 15 歩→Uターン→常歩 5 歩→停止→常歩 10 歩→左折→常歩 15 歩
→停止



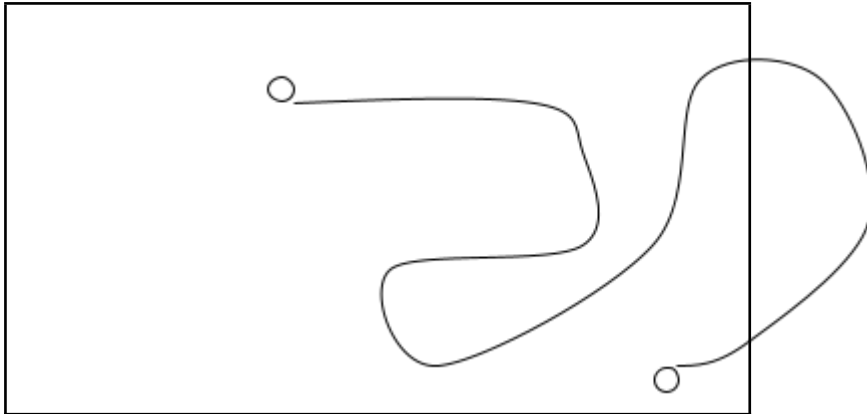
規定と評可

首輪は締まらないように 装着します。審査員が合図するのは出発の時だけです。犬は受験者の脇を喜んで、一定の位置を保って歩くことが望めます。指示が使用できるのは出発の時と歩度を変更する時だけです。紐で犬をコントロールする、停止したとき犬が座らない、何度も声の指示を使用する等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

2. 審査員の指示に従って、紐付きで横に付いて歩く (30点)

実施要領

紐付きの犬を伴って出発点に基本姿勢で立ちます。審査員の指示「まっすぐ歩く」「右に曲がる」「左に曲がる」「Uターンをする」「止まる」等により歩きます。



規定と評可

首輪は締まらないように装着します。審査員が合図するのは出発の時だけです。犬は受験者の脇を喜んで、一定の位置を保って歩くことが望まれます。指示が使用できるのは出発の時と歩度を変更する時だけです。紐で犬をコントロールする、停止したとき犬が座らない、何度も声の指示を使用する等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

3. 座れ—呼び寄せ (10点)

実施要領 出発点で受験者と犬は基本姿勢で立ちます。審査員の合図で、振り返ることなく常歩で15歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬を呼び指導手の正面で座らせます。一呼吸おいて犬に基本姿勢をとらせます。

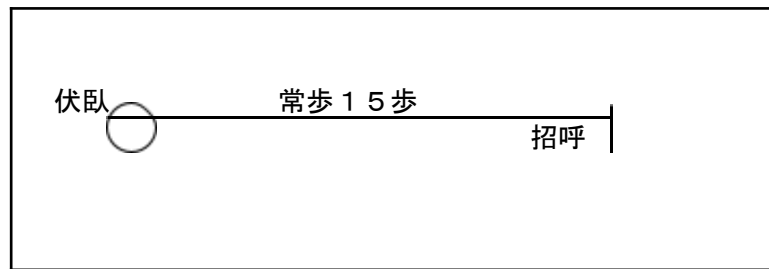
規定と評価

犬は呼ばれたら喜んで受験者のもとに駆け寄り正面で真っ直ぐに座ることが望まれます。正面で座った犬に基本姿勢をとらせるとき、犬は受験者の後ろを回るか、直接左側についておかまいません。犬が伏せてしまったり、立ったりして受験者が呼ぶまで動かなかった場合は3点の減点。受験者の後を追って5歩以上動いた場合は0点。受験者の正面で座らずに直接左側に犬が付いた場合は3点の減点。落ち着きが無い、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

4. 伏せ—呼び寄せ (10点)

実施要領

出発点で受験者と犬は基本姿勢で立ちます。審査員の合図で、伏せをさせ、振り返ることなく常歩で15歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬を呼び指導手の正面で座らせます。一呼吸おいて犬に基本姿勢をとらせます。



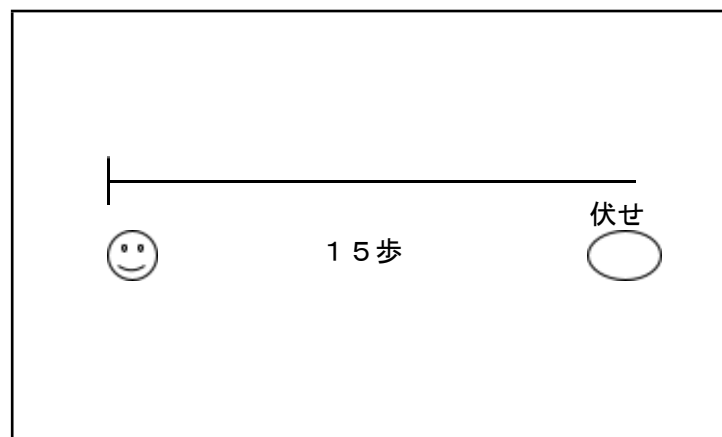
規定と評価

伏せた犬が腰を崩してもかまいません。犬は呼ばれたら喜んで受験者のもとに駆け寄り正面で真っ直ぐに座ることが望めます。正面で座った犬に基本姿勢をとらせるとき、犬は受験者の後ろを回るか、直接左側についてもかまいません。犬が座ってしまったり、立ったりして受験者が呼ぶまで動かなかった場合は3点の減点。受験者の後を追って5歩以上動いた場合は0点。受験者の正面で座らずに直接左側に犬が付いた場合は3点の減点。落ち着きが無い、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

5. 伏せて待つ (20点)

実施要領

受験番号の若いペアが出発地点に、そして受験番号の後のペアが指定された場所へ行き、審査員の合図で犬を伏せさせます。クイにつないである紐に付け替え、受験者は振り返ることなく、15歩進んで犬の正面に立ちます。審査員の合図で、犬のもとに行き、伏せている犬の右側に立ち、繋いだ紐を付け替えて、審査員の合図で犬を座させます。



規定と評価

犬は伏せた状態で、静かに待っていることが望めます。犬のもとに帰ったとき、犬の後ろを回って、あるいは直接犬の右側に立っても、どちらからでもかまいません。犬が紐を張った状態でひどく騒いだり、受験者の所に行きたがったりした場合は0点。指導手が犬のもとに帰る際に犬が立ち上がって受験者の方に行こうとして紐が張った状態になった場合は3点の減点。落ち着きがない、動く、姿勢を変える等の評価は程度により審査員が判断します。

SET 2 テスト

オビディエンステスト１００点
２組が一ペアとなり行われます。
レベル２は入場から退場まで紐を外して行います。

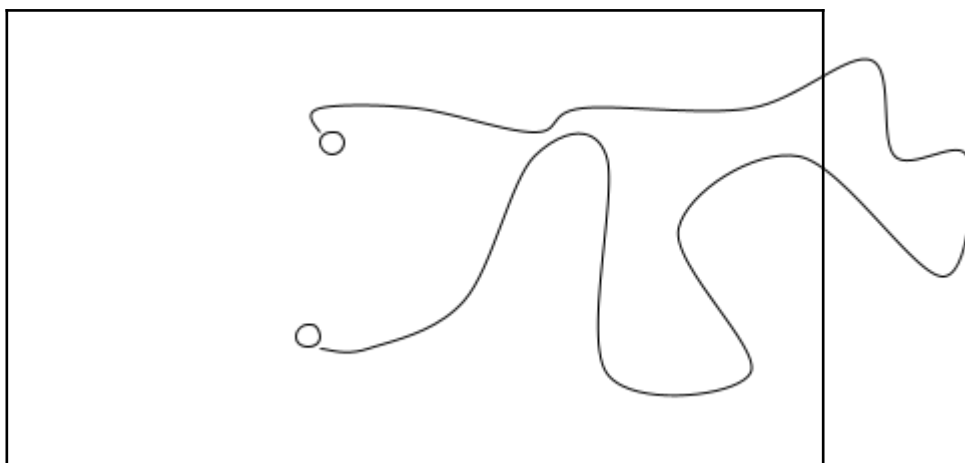
１．決められたコースを、紐なしで横に付いて歩く （２０点）

実施要領

紐なしの犬を伴った２ペアが審査員の前に進み出て申告をします。受験番号の若いペアが出発点で基本姿勢（受験者は進行方向に立ち、犬は真横で真っ直ぐに座る）で立ちます。審査員の合図で指示とともに以下の通りに歩き出します。

往路：常歩３０歩→Ｕターン

帰路：常歩５歩→早足１０歩→ゆっくり１０歩→常歩５歩→右折→常歩１５歩→右折→常歩１５歩→Ｕターン→常歩５歩→停止→常歩１０歩→左折→常歩１５歩→停止→
群集通過→Ｕターン→群衆１人の横で停止



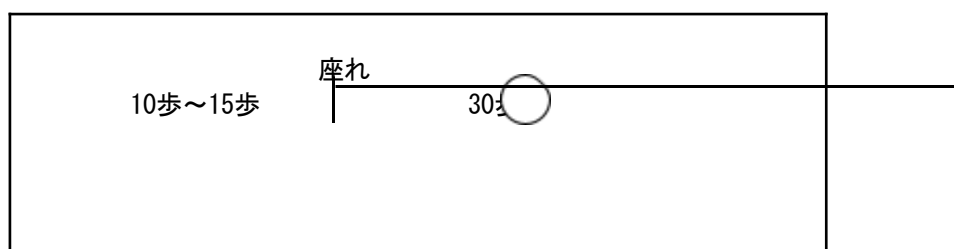
規定と評価

試験会場に入場する時点で、紐は外してポケットに入れるか、肩にたすきに掛けておきます。犬は受験者の脇を喜んで、一定の位置を保って歩くことが望めます。指示が使用できるのは出発の時と歩度を変更する時だけです。停止したときに犬が座らない、何度も声の指示を使用する等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

3. 常歩中の座れ (15点)

実施要領

出発点での基本姿勢から、審査員の合図で受験者と犬は常歩で歩きます。10歩～15歩進んだ時点で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに指示で犬を座らせ、30歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬のところに帰り、犬の右側に立ちます。



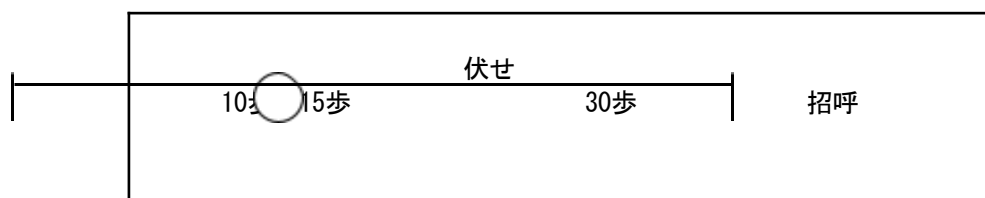
規定と評価

犬のもとに帰ったとき、犬の後ろを回って、あるいは直接犬の右側に立っても、どちらからでもかまいません。犬が座らずに伏せてしまったり、立ったまま受験者が帰ってくるまで動かなかった場合は5点の減点。受験者の後を追って5歩以上動いた場合は0点指示で一緒に歩き出すことをいやがったり、指導手から遅れて歩く、「スワレ」の指示に受験者が歩度を変える、立ち止まる等や、犬の座る動作が遅い、姿勢を変える、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

4. 常歩中の伏せ—呼び寄せ (15点)

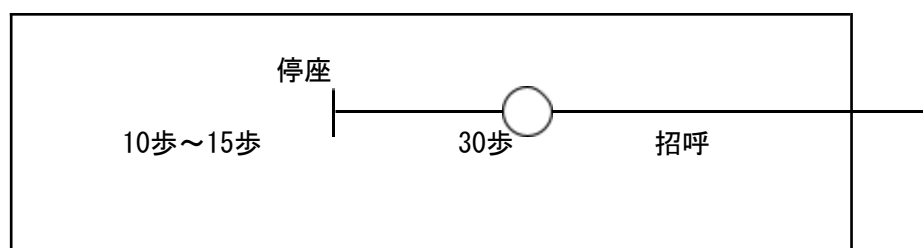
実施要領

この科目は出発点に戻ることなく、常歩中の座れを終えた時点での基本姿勢から始まります。審査員の合図で、10歩～15歩進んだ地点で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の指示で犬を伏せさせ、そのまま30歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で犬を呼び、正面で座らせませす。一呼吸おいて、犬に基本姿勢をとらせませす。



規定と評価

伏せた犬が腰を崩してもかまいません。犬は呼ばれたら喜んで指導手のもとに駆け寄り正面で真っ直ぐに座ることが望まれます。正面で座った犬に基本姿勢をとらせるとき、犬は受験者の後ろを回るか、直接左側についてもかまいません。犬が座ってしまったり、立ったりして指導手が呼ぶまで動かなかった場合は5点の減点。受験者の後を追って5歩以上動いた場合は0点。受験者の正面で座らずに直接左側に犬が付いた場合は3点の減点。命令と一緒に歩き出すことをいやがったり、受験者から遅れて歩く、「フセ」の指示に受験者が歩度を変える、立ち止まる等や、犬の伏せる動作が遅い、姿勢を変える、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。



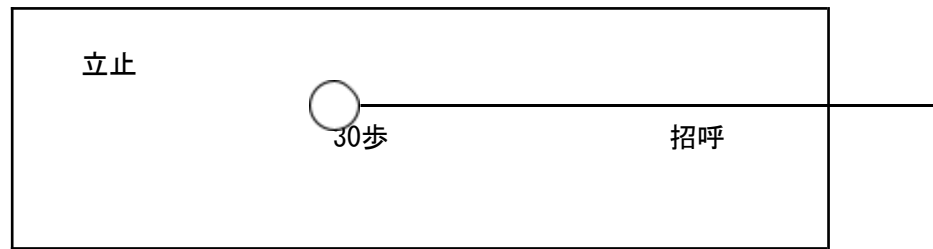
規定と評価

犬のもとに帰ったとき、犬の後ろを回って、あるいは直接犬の右側に立っても、どちらからでもかまいません。犬が座らずに伏せてしまったり、立ったまま指導手が帰ってくるまで動かなかった場合は5点の減点。指導手の後を追って5歩以上動いた場合は0点指示と一緒に歩き出すことをいやがったり、指導手から遅れて歩く、「スワレ」の指示に指導手が歩度を変える、立ち止まる等や、犬の座る動作が遅い、姿勢を変える、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

5. その場での立止一呼び寄せ (15点)

実施要領

この科目は出発点に戻ることなく、常歩中の伏せを終えた時点での基本姿勢から始まります。審査員の合図で「タッテ」の指示をさせ、常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。審査員の合図で、犬を呼び、正面で座らせませす。一呼吸おいて犬を基本姿勢をとらせませす。



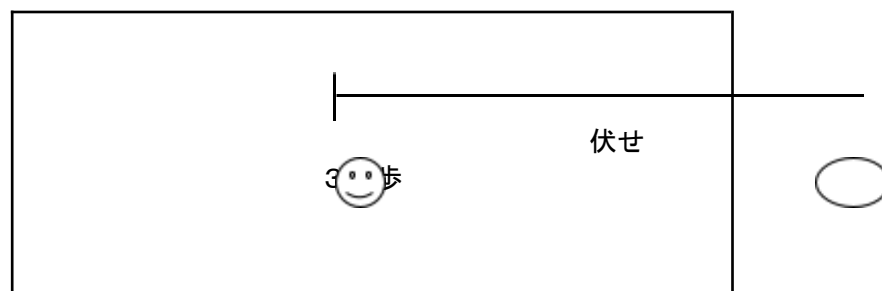
規定と評価

犬は呼ばれたら喜んで受験者のもとに駆け寄り正面で真っ直ぐに座ることが望まれます。正面で座った犬を左側に付けて座らせるとき、犬は受験者の後ろを回るか、直接左側についておかまいません。犬が座ってしまったり、伏せたりして、受験者が呼ぶまで動かなかった場合は5点の減点。受験者の後を追って5歩以上動いた場合は0点。受験者の正面で座らずに直接左側に犬が付いた場合は3点の減点。犬の立つ動作が遅い、動く等の評価は程度に応じて審査員が判断します。

6. 伏せて待つ (15点)

実施要領

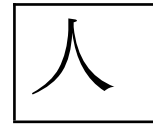
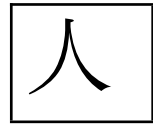
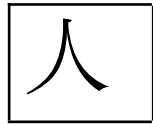
受験番号の若いペアが出発地点に、そして受験番号の後のペアが指定された場所へ行き、審査員の合図で犬を伏せさせます。受験者は振り返ることなく、30歩進んで犬の正面に立ちます。審査員の合図で、犬のもとに行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の合図で犬を座らせます。



規定と評価

犬は伏せた状態で、静かに待っていることが望まれます。犬のもとに帰ったとき、犬の後ろを回って、あるいは直接犬の右側に立っても、どちらからでもかまいません。犬がその場から3m以上動いた場合は0点。受験者が犬のもとに帰る際に犬が立ち上がって受験者の方に行こうとした場合は3点の減点。落ち着きがない、動く、姿勢を変える等の評価は程度により審査員が判断します。

SET1



- ◎ 犬を犬舎において待たせられるか。
- ◎ 犬舎の中で安定した態度でいられるか。
- ◎ 一頭ずつ犬を出し、人の中を歩いたり、犬舎の前を通り過ぎる。

SET2

- ◎ 犬と人の周りを、審査員が歩く。
- ◎ 犬を審査員がさわる。

ドッグランの中での犬の招呼

犬の社会性テスト

(これはいくつかの例です。当日ジャッジが必要に応じて項目を作る事もあります)

室内でのテスト

- ・ 部屋に犬を待たせられるか？
- ・ ハウスができるか？
- ・ トイレのしつけはどうか？
- ・ 訪問者に対しておとなしくできるか？
- ・ チャイムが鳴ってもおとなしくしていられるか？
- ・

屋外でのテスト

- ・ 係留できるか？
- ・ 犬が大勢いる中を気にすることなく通り抜けられるか？
- ・ 犬の顔や体を触れるか？
- ・ 他人が触れるか？（犬が受け入れられるか？）
- ・

車内でのテスト

- ・ おとなしく乗っていただけるか？
- ・ おとなしく待っていただけるか？
- ・

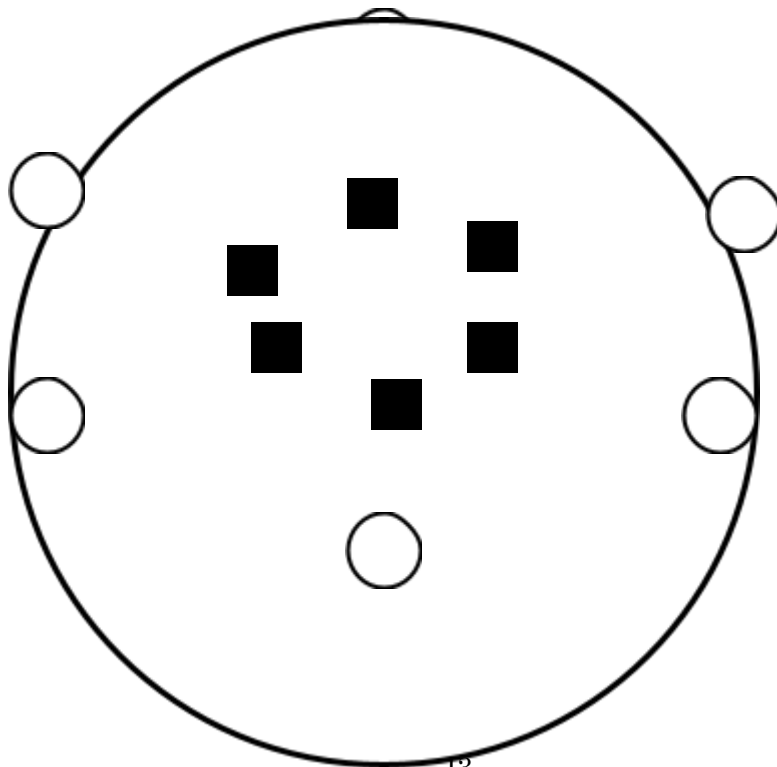
ドックランでのテスト

- ・ 呼んで戻ってくるか？
- ・

オビ

- 1 線の上を音楽に合わせてオーナーさんと犬は歩く。
- 2 音楽が止まったら犬を○の中で待たせてオーナーさんはイスに座る。
- 3 犬が円から出てしまったら、犬のもとへ行き、もう一度○の中で待たせる。

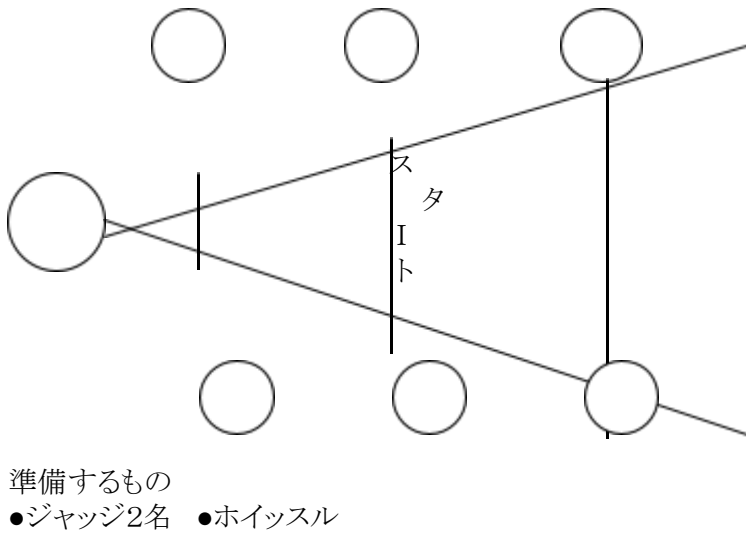
※イスに早く座っても、犬が○から出てしまうとイスから離れてしまうため、イスを取られてしまうこともあるので、確実な「マテ」で犬が動かないようにしましょう！
(○の中で待っていれば、座っていても伏せていても立っていてもOKです)



オビdeだるまん

〈競技説明〉

- 1 オーナーさんと犬は一行に並びスタート位置につく。
 - 2 鬼の人に向かって進み、鬼の「○○だるまんがころんだ」という指示でストップする。動いてしまったペアはスタートに戻り、最後まで残ったペアが勝利！
- ※ お助けゾーンに入れば動いてもセーフ
 - ※ 犬ができない場合は代わりにオーナーさんが行ってもOK！



準備するもの

- ジャッジ2名
- ホイッスル

オビdeスルー

〈競技説明〉

コース上にあるコマンドや障害物をクリアして早さを競い合います。

